

とんぼ祭 開幕



いよいよ始まったとんぼ祭。今年のとんぼ祭開祭式では、感染症対策を行いつつ、大体育館に生徒が集まり行われた。

今年も、感染症対策の関係で、開祭式において声を出すことは禁止されていたが、皆、うちわを使って音を鳴らしたり、拍手をして場を盛り上げていた。

また、とんぼ祭100連発や、オープニングムービー、さらに、テーマソングバンドの演奏を通して、と



校内掲示

松本深志高校
新聞委員会
7月9日(土)

んぼ祭開祭を皆が実感しただろう。

見どころがたくさん開祭式から始まったとんぼ祭の残り三日間は、盛り上がることは間違いないだろう。

(文責 田中)

女装・男装コン

女装、男装をしてかわいらしき、かっこよさを追求し、No.1を決めるコンテスト。それが、女装・男装コンテストである。

中庭で行われるこのイベントは、去年から始まった。今年も参加者も観覧者も多く、大変な盛り上がりを見せた。参加者は非常に個性が強いテーマでコンテストに臨んだ。とんぼ祭が始まる前から楽しそうに準備を進める姿も見かけた。2年

号外

編集責任者

3年1組 田中 帆芽



ともに全校生徒から人気を集めているこのイベントが、毎年の恒例となる日も近いのではないだろうか。

(文責 林)

音楽部

午後2時より音楽室にて、音楽部の公演があった。音楽部は室内楽班と合唱班に分かれる。この公演では、両班の演奏が交互に行われ、最後は混合の演奏

深志新聞とんぼ祭号外一回目の今日は、とんぼ祭一日目に行われた行事を特集しています！
いろいろな行事の写真もあるのでぜひ読んでください！

が行われた。全二曲。音楽のことを言葉で伝えるのは大変難儀だが、努めて書かせていただく。素人目ながら両班の特長がよく表れた公演であったと思った。室内楽班の演奏はクラシックが主で、弦楽器の優美な音色をよく感じられた。一方の合唱班も、男声が少ないながらも、豊かな表現で感動を呼んだ。優れた演奏に脱帽した。音楽部はとんぼ祭3日目も、教育会館で公演を行う。

(文責 和田)

演劇部

午後4時から講堂にて行われた演劇部のとんぼ祭公演では、成井豊作「水平線の歩き方」が上演された。このお話は主人公の岡崎幸一が幼い頃に死別したはずの母親と再会し、母が亡くなったから出会った人々との心暖まる話を母に伝える、不

思議で穏やかな物語だ。私は今まで演劇を鑑賞したことがなく今回が初めてだったが、とても面白く思わず登場人物に感情移入しながら観ていた。また機会があれば見に行きたいと思う。そして、日曜日にも講堂にて午後3時より演劇部の公演が行われるそう。皆さんもぜひ！

(文責 中神)

アコギ部

蜻蛉祭一日目、視聴覚室でアコースティックギター部のコンサートが行われた。

J-POPを中心に、洋楽やポークロイド曲など、計22曲が演奏された。1人での演奏の穏やかな音色や、3人でのアコースティックギターならではのきれいな和音、部員の皆さんの魅力的な歌声など、素晴らしい音にあふれた2時間であった。(文責 小倉)

よひまつり

今年のよひまつりは、第一部と第二部にわかれて行われた。

内容は、三年生や二年生の生徒による自作の劇だった。セリフが読み上げられている中で、舞台上の人達が、それに合わせて体を動かし表現する、かなり練習していただろうと思われる劇だった。息もピッタリで、まるで実際に目の前で事が起きているかのような迫力があつた。

劇中も大いに盛り上がり、観客の笑いや拍手を引き起こし、一部の人はとても盛りあがっていた。

高度なネタの劇であったため、途中退出する人が多く、かくいう私も途中で挫折した者である。そのため、第二部は皆さんのご想像にお任せしたい。

(文責 安坂)

1日目に行われた行事の様子

